

令和7年度 第15回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年9月23日(火・祝) 14:00～

場 所:林コミュニティセンター

参加者:8人



◆ メンバーから意見を出し合って、工夫しながら防災訓練を行っています

(参加者)

まず林地区の概況を説明したいと思います。区画整理事業によって人口が増えている地区で、現在2400戸以上の世帯があり、今後また部入道地内の区画整理でさらに200軒ほど建つのではないかと思います。

公共交通として石川線がありますが、市長さんにも、また近隣の自治体にも頑張ってください、石川線の長期計画(15年計画)によって、15年間はなくなるなということで、安心しています。

水害対策について、県の事業である高橋川の改修は林地区にも大きな影響があります。現在曾谷町で線路に沿って流れている川を東側へ移す工事が行われていますが、あと数年で合流となる見込みだと聞いています。さらに、今度国の認可を得る予定の月橋大谷川の水を高橋川の放水路へ流す工事が実現すれば、浸水被害はかなり緩和されと考えられます。県から林地区にも説明があり、大変心強く感じています。安全な地域に向けて工事が行われていることを、地区の皆さんにも理解していただきたいと思います。

地震の関係では、森本富樫断層の新たな被害想定が出ていますが、地区ごとの被害想定の情報提供をお願いしたいと思います。影響を大きく受ける地区ですので、住民に対して、どういう被害があるのかなどいうのを知らせておいた方がいいと思っています。

林地区コミュニティ協議会の活動内でも防災訓練等々を行って今年 3 年目になりました。今年もメンバーの皆さんから色々なご意見をいただいて、どうしたら人が集まってくれて興味を持ってくれるのかなということを考えて工夫を重ねています。今までの公民館では、防災に関してのことはできませんでしたので、一番変化があった部分で、よかったかなと思います。

その他、林地区コミュニティ協議会の大きな事業としては、運動会、文化祭のほか、虫送り子ども相撲大会は他地区にはあまりない行事で、3町会の虫送り太鼓に出てもらって相撲大会をしています。

林地区の特徴的な運営方法として、旧公民館時代から事業を手伝うボランティアである専門委員制度がありますが、さらに拡充し、コミュニティ事業を支える体制を強化していきます。また、これまで行ってきた事業は、引き継げるものは引き継ぎ、辞められるものは辞めていこうということで、今後順次検討できるようにしていきたいなというふうに思っています。

活動の変化としては、まず、はやし NEWS という広報紙です。これまでは公民館職員が作成していましたが、現在は総務・広報部会で担うようにしており、大きく変わりました。

また、以前から活発に活動している花の会では、国道花壇や各町内会の花壇の整備活動作業などを継続しています。昨年からは採点方法を改善し、どこの町内会でどんな花を植えているか、どういう形をとっているかが分かるようにやっています。

今後、地区社会福祉協議会についてなどの課題がありますが、これについては民生委員児童委員と協力してやってまいります。

◆ 地域コミュニティ組織で社会福祉事業の実施に向けた準備をしていますが、個人情報の取り扱いについて懸念があります

(参加者)

現在、民生委員が行っている活動のうち、3つの事業については、白山市社会福祉協議会鶴来支所が事務局として各種の手続き等を担っていただいています。この事業は令和8年度に、各地域の自主的な活動として移管される予定です。

これらの事業は高齢者を対象にしており、高齢者の個人情報を取り扱う必要が出てくることについて懸念を抱いています。

事業そのものの存廃や運営方法は協議すればよいと思いますが、個人情報の取り扱いをどう定めるかは早急に検討する必要があります。地方公務員や民生委員には守秘義務が法的に定められており、在職中だけでなく退任後も(終生にわたり)職務上知り得た秘密を守る義務があります。

一方で、林地区コミュニティ協議会は任意団体であり、法的に同等の守秘義務を課せるのか、あるいは市と誓約書を交わすなどの形で守秘義務を確保できるのか、といった点は明確ではありません。新年度までの間にこの点を十分に分析・検討しておく必要があると考えています。

(総務部長)

町内会や地域コミュニティ組織と市で協定を締結しますと、避難行動要支援者名簿を提供できます。それをもとに、社会福祉事業や避難訓練等に取り組んでいただければと思います。名簿には住所、氏名などの最低限の情報が載っています。

(参加者)

協定によって町内会に提供される名簿は、民生委員が調査して社会福祉協議会が持っているものよりも簡略化された内容のものです。これまで同様の社会福祉協議会の名簿を取り扱うには、町内会や、別組織である林地区コミュニティ協議会との間で、別途協定が必要になるのではないかと考えています。

民生委員に情報をいただけるというのは、民生委員法で守秘義務がありますので、公共の福祉に反しない範囲においては、市とその情報が共有されることは、地方公務員法に違反しないことになっています。それ以外のイベントに利用するときや民生委員以外の場合はどうかということで、気になっているところです。

林地区では15人の民生委員がいますが、例えば、誕生月にお祝い品を渡すという事業があります。それを継続する場合は、民生委員から事務方に、どこの誰それさん、何年来月生まれに何歳になりましたという情報を集約しないと、対象者の確認ができませんし、全体の人数もわかりません。現状の事業は、民生委員が個人情報をも事務方に上げないと成立しないものになっています。

(参加者)

この話には、その「事務方」をどこが担うのかということと、個人情報の取り扱いをどうすべきかという二つの課題があります。

これまで、鶴来地域5地区では、白山市社協鶴来支所が事務局を担って事業を行っており、地区社会福祉協議会については、鶴来・蔵山が設立済みですが、一ノ宮・館畑・林地区ではまだ設立できていません。

そのような中で、来年度からの事業は必ず地区ごとでということとなり、地区社会福祉協議会の設立や、地域コミュニティ組織との関係性、事務方を担うのはどこで事業をどのように行うのかなどの課題がある、というのが一つ目です。新たな組織を作るという負担もありますし、既に設立している林地区コミュニティ協議会の中で検討していくのがよいのではということや、民生委員さんを中心にやっていただけたらということなど、検討を進めているところです。

その組織的な整理と同時に、実際に事業を行う際には、二つ目の課題である個人情報の取り扱いについても考え、必要に応じて協定の締結などを進めていくこととなるかと思います。

◆ 防災士の資格取得後のスキルアップや実践に繋げるための支援をお願いしたいです

(参加者)

防災士の立場から白山市全体のことでお話ししたいと思います。白山市では県と市の支援で受講者が費用を負担せずに防災士の資格ができる仕組みになっています。その結果、白山市の防災士数はどんどん増えていますが、残念ながら資格保有が必ずしも実際の活動につながっていないのが現状です。白山市防災士会も危機管理課のご支援をいただきながらスキルアップ研修などに取り組んでいますが、なかなか思うような成果が出ていません。せっかく公費で増やした人材を有効に活用するためにも、事務的な面や研修などでご協力をいただき、各地区で継続して活動できる体制づくりを進めていきたいと考えています。

また2点目としては、白山市では防災士になる際に町会長の推薦状が必要ですが、他の市町ではより高いハードルを設けているところもあるようです。今後も意欲ある方を不当に制限することがないように配慮をお願いしたいと思います。

さて、林地区では今年で3回目となる防災訓練を実施しました。他地区も含め、地域コミュニティ組織への移行や能登地震の影響などを受けて、防災への取り組みを強化する動きが広がっています。白山市防災士会にも多くのお声がけをいただいており、各地区での支援や市全体での支援にあたっては、その後のスキルアップや実践に結びつける支援が重要だと考えます。こうした面での継続的なご支援をお願いしたいです。

町会長からすれば「推薦して資格を取らせたのだから、すぐに町内で防災活動をしてほしい」と期待されるかもしれませんが、資格を取得した直後には十分に実務をこなせないのが現実です。そこで、ノウハウを共有する場が必要だと考えます。それが防災士会の役割なのか、コミュニティセンターを中心とした横のつながりなのか地区ごとに適した方法があると思いますので、活用の仕方も含めてご検討・ご支援をお願いしたいです。

(市長)

他地区でも同様の話がでていました。確かに資格を取った後の横の繋がりやスキルアップということは大切だと思います。

◆ 地区内のつながりが希薄になってきていることに危機感を持っています

(参加者)

公民館時代から地域活動に取り組み、令和6年度から地域コミュニティ組織とコミュニティセンターの連携体制になってからもよく議論して進めていけていいなと思っています。ただ林地区は新しい家庭が増え、昔からの横のつながりが薄く、若い世代の地域参画が弱くなってきたことを感じます。子どもの行事には来ても、地域活動や消防団となると関わりが少ない。町会長も1年交代で「自分の任期に問題がなければ」という空気もあり、話が進みにくいです。南消防団林分団はなり手が少なく消滅寸前で、日中は仕事で出動できる人がほぼいません。地区としての大きな課題だと思っていて、とても危機感があります。

(市長)

人口が急増した地区では同じ悩みをよく聞きます。町内会に入らない、会費を払わないなど考え方も多様です。ただ、地域コミュニティ組織をこうして作っていただいているのは、地区のつながりを持つことによってコミュニティとしての力を上げていただきたいというのが一番大きな狙いです。だんだん横のつながりがなくなり、あいさつをしないので、子どももしなくなってきたという話も聞きました。地域の中で子どもが育っていくためには、人と人のつながりというのも大切だと思います。その中で、さまざまな行事を企画して取り組んでいただいているのだらうと思いますが、センター長としてはどう見えていますか。

(参加者)

住民の方から公民館とコミュニティ組織はどこが変わったのと聞かれたときに「公民館と変わらない」という姿勢では協力は得られないので、職員に背景や目的を学ばせ、説明できるように、お互い勉強するようにしています。

事業に参加される方、ご協力いただける方などとの人とのつながりは、職員のおかげでうまく築けているように思います。事業は「昨年と同じ」ではなく、集客や学び、つながりの成果を振り返り、次につなげるように改善してくるようにしています。

防災倉庫の整理では協働推進課や町会長の若手が休日に手伝ってくれ、協力の輪ができました。消防団や子ども会への参加に直接つなげて人数を増やすというのは難しいですが、やりがいのある活動が横につながるように進めていきたいと思っています。

(市長)

どこも地域のつながりが希薄になってきていて、人口が多くても行事が成り立たない例もあります。町会長の交代が早く地域力が上がりにくい中、地域コミュニティ組織が核になって地域づくりをする、コミュニティ力を上げる、ということが大きな仕事になってくると思います。これは社会教育、生涯学習が中心となる公民館ではできなかったことです。

防災訓練の話などをお聞きすると、意識向上につながっているのではないかと思います。特に人口が急増している地区ですので、いろいろな考え方があるのでしょうね。虫送りや相撲大会などの伝統行事は子ども会で続けているのですか。また、花の会も以前から盛んですがこれも子ども会と連携していますか。

(参加者)

虫送り・相撲大会は地域コミュニティ組織と協賛です。参加する子どもは昔より減っています。夜開催で送迎の負担があり、距離のある地区は来にくいところがあります。相撲は時代に合わせて服装など工夫して周知していますが、すぐ集客にはつながりません。

(参加者)

花壇の整備については、子ども会は普段の作業には来ませんが、国道花壇への植栽時には協力してもらっています。以前から、各町内の花壇の審査をしていましたが、昨年から各町の公民館長らにも参加してもらい、他地区の状況を見て意識を高める形にしました。

(参加者)

一番多くの人が集まる行事は地区の運動会です。町内会を合同にするなど工夫して 12 チーム制にしていて、約 1500～2000 人が集まります。以前は町内会の親睦会も併せて一日中行っていましたが、今は午前中で終了し懇親会は町内会ごとに行っています。

運営は各町会から 1 戸 1000 円の協力金を集め、公民館(現センター)に納めています。町会からいただく以上、行事や配布で還元する考えです。今年は運動会が中止でも景品は配布しました。コロナ期に一時協力金を止めた年がありますが、現在は繰越金が多めです。

◆ 地区協力金の繰越金を活用し、各所と確認・連携を取りながら、消火栓の表示や子ども用足跡止まれ表示の改修を行っています

(参加者)

消防関係では、消火栓の位置を示す矢印を道路に書く作業は、これまでは消防分団が担っていましたが、継続が難しい状況です。本来は消火栓の管理者が分かるようにしていく必要がありますし、各消火栓の看板も、少しずつ更新していると聞くものの、数が多く、消えて真っ白になっているものもあります。

そこで、消火栓の場所を分かりやすくするため、看板にシール式表示を貼ることにしました。支所に設置について確認した上で進め、今年は 51 か所の看板にシールを貼りました。見た目もきれいになり、塗装より長持ちしそうだと感じています。

また、子ども向けの黄色の足跡ラインも、消えている所が多く、地域コミュニティ組織で対応することとして計画しています。各町内会から場所の写真と地図を出してもらい、集計して支所と打ち合わせました。1 回引けば 10 年ほど持つので、早急に進めたいです。

ただ、幹線道路で路側線などが入っていない場所は、市や県にも道路管理に合わせてお願いしてほしいと支所に伝えています。予算がないと言われがちですが、安全が最優先だと思います。交通安全協会は飛び出し坊やの設置が中心なので、必要があれば依頼していきます。

さらに、防災備蓄品も市の対応に加え、市だけに頼らず、不足分は地域コミュニティ組織でも準備するため、予算を確保しています。

こうした形で、地域の安全を守るため、消防や交通安全の応援も地域コミュニティ組織でできればと思い、地域でできることは進めます。費用は繰越金の積立を活用していきたいと考えています。

◆ 忠霊塔撤去の相談と跡地活用について提案があります

(参加者)

コミュニティセンター前に忠霊塔がありますが、管理する遺族会が、市に撤去のお願いをしたいという話になったということで聞いております。忠霊塔には、当時の林村の村長、議長、寄附者の名前が入った昭和29年の名盤がついています。遺族会では、その遺族の方々全員の了解を得て、撤去するということが決まり、支所を通じて市の方をお願いし、解散しました。

この件について、忠霊塔撤去後の跡地についての提案です。林コミュニティセンターの駐車場は狭く、隣に民間の十数台分も借りていますが、それでもやはり少ないです。というのも、通勤通学のパークアンドライドに使うKパークについて、コミュニティセンター前に5台分の駐車場を取ってあります。石川線存続に向けた検討の経緯を考えると、Kパークは継続して確保が必要ですし、市の地面である忠霊塔跡地をKパークの駐車場にいただければ、土日はコミュニティセンターでも使えますし、一番いいのではないかなというふうに思っています。

(市長)

遺族会は解散されたということですね。忠霊塔は、遺族の方の高齢化によって、全国的にも課題になっていますし、市内の各地区からもお話を聞いています。要望をいただいているところですので、来年度以降の事業として検討していきたいと思います。国からの補助も受けられると聞いています。

◆ 未就学児向けの事業が、小さい頃からのコミュニティセンターの利用に結び付けばと思っています

◆ 市広報紙等へ地区事業の掲載はできませんか

◆ 情報発信のデジタル化は今後の課題です

(参加者)

昨年、教室としてベビーマッサージが1つ増えました。これまでは子ども向けの事業は、子ども会、小学生以上が対象のものがほとんどでした。未就学の子は、きょうだいと一緒に来てついでに参加することはあっても、「未就学児向け」は少なかったと思います。

新しい住民が増えてきましたが、コミュニティセンターがどこにあるか分からない方も結構いる印象です。来るとしても、投票の時とか文化祭の時に少し、という感じで、普段の利用にはつながりにくいです。近い人は来られても、富光寺あたりからだと車になりますし、駐車場も少なく、文化祭に行きたくても乗り合わせまでという人は多くないと思います。

だからこそ、小さい頃からここで遊んだり来たりして、ここでこういう事業やっているんだって分かっていると、通いやすいのではと思います。あそこで誰々ちゃんと遊んだ、あそこで待ち合わせした、みたいな記憶は残っています。赤ちゃんのいる家庭も、支援センターのように遊ばせに行ける場所がコミュニティセン

ターでできないかなと思っています。お世話とか安全面とかの大変さはあると思いますが、小さい頃から関わっていると、小学生になった時に子ども会などへのつながりにもなっていくと思います。

そういう意味で、今年ベビーマッサージを事業として入れていただけて、本当に嬉しいです。新しい方がいろんな事業をきっかけにここに来て、玄関のチラシを見て「白山市ってこんなことしてるんだ、行ってみようかな」と思う人が増えてほしいです。

広報紙も、見ている方は多いと思います。野々市市では何を見て参加したかを聞くと、ホームページより広報を見てという方が多いと聞きました。だから情報を紙で発信していくのは大事だと思います。

町内は高齢化が進んで、子どもも少なく、運動会も参加が難しいくらいです。来てくださいと言っても歩いて行けんわ、と言われます。市の広報誌に、市の情報だけではなく、地区でこういうことをしますといったことも少し載せてもらえると助かるし、参加のきっかけも増えるのではないかなと思っています。

(シティプロモーション推進課長、協働推進課長)

確かに広報紙で地区の事業等を掲載している市町もありますが、例えば野々市市は4地区ですが白山市は28地区あります。現状では、各地区の事業案内を市広報紙で取り扱うことは、量や公平性の観点から難しいように思います。

現在発行されている「はやし NEWS」で多くの地区住民に周知していただきたいと考えています。

(市長)

住宅地も広くなり、人口も増え、情報発信もなかなか大変だと思います。議会の質問で、広報紙や回覧板をデジタル化できないかという話がありました。こちらではそのような取り組みはしていらっしゃいますか。例えば林コミュニティセンターでは、広報紙を工夫されていると思います。今はペーパーということですね。

(参加者)

実は電子的に配布できるプラットフォームはありますが、うまく連携ができておらずまだ進めていません。今のところペーパーでおたよりを出していますが、今後検討していく予定にしています。

(参加者)

子ども会の中では、保護者のラインで情報を送っていますし、また、町会長協議会や、町内会の役員会などは基本的にはスマホでやり取りしている場合も多いと思います。

(参加者)

私の町内会では広報紙を一ページずつ写真で撮って、それをラインで送っています。ほぼ全員参加しており、そういったこともしようと思えばできますが、それで見ると言えどもかなとも思います。

(参加者)

紙での広報というのは、月 1 回と限度がありタイムリー性に欠けるので、スマホなりの登録による媒体を使ったり、新聞での広報をよりタイムリーなお知らせにしたりというように工夫すればいいかなと思います。金沢市は新聞の広報を月に 2 回、非常にタイムリーに発信しています。新聞を購読しない方はラインなどで見ていただけるのではないのでしょうか。

(参加者)

私は白山市も既に工夫して十分早い情報をいただけているという認識です。ライン公式に登録すれば、毎日たくさんのタイムリーな情報がきます。ただ、これは先ほどから市長がおっしゃる通り、それで見ることができる人と、紙がいい人がいるので、どうしてもハイブリッドが必要だと思います。

町内会や地区のデジタル化は、費用と技術的スキルという二つの問題があって、できているところは誰かの技術的な努力に支えられているというところかと思います。そこを、例えば市が全部の町内会に例えば結ネットのような専用のシステムを導入するのには費用がかかります。今はそれぞれの地区や町内会が費用をかけずに模索していくのが、現状ではないかなと思います。

(市長)

確かに、市からの情報発信は広報紙や新聞以外にも、デジタルでもラインやメールなどさまざまな形で出しており、皆さんからもどんどん入ってくるという話を聞きます。ただご存知ない方は全然そういう話を知らないで、その差をどうするかという課題があります。

町内会でも、ラインなどで工夫しているところもありますし、専用のアプリを使っているところもあります。全体としては、やはりペーパーでほしいという方もいらっしゃるので、紙とデジタル両方のハイブリッド式という話になっていきます。毎月配布物を仕分けする町会長さんもお負担だと思いますので、市としてもデジタル化について検討していかなければいけないと思っています。

皆さんからさまざまなご意見をいただきました。初めに言われましたが、地域コミュニティ組織化、コミュニティセンター化したことによって、A が B に、B が C にというようには簡単にいかないと思います。私は、地域コミュニティ組織によって、コミュニティの力をしっかりと上げてほしいと願っています。ただ人口が多い、少ないということだけではなく、地域のそれぞれの資源としての人々の力を本当に発揮していただける、そういう場となってほしいなと思っています。

林地区でも多くの取り組みをしていただいています。こうしてしっかりとした組織が出来上がり、取り組んでいただいていることに感謝を申し上げます。今後とも市の方でもしっかりと支援等をしていきたいと思
いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。